

2024/06/23

説教題：神の恵みの栄光のために

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこばいでくださいました。

ローマ人への手紙からのメッセージを終えたところで、ローマ人への手紙全体に織り込まれているキリスト教の主要なテーマを思い出してみましょう。そのテーマ、「義認」とは、イエスの十字架上の死に基づいて、私たちはもはや罪がなく、永遠の赦しを買うために義とされた、という神の宣言である。今日から、同じくパウロによって書かれたエペソ書を始めます。エペソの教会に宛てたパウロの手紙は、クリスチャンたちに、あたかも自分たちがすでに天国にいるかのように、神の視点に立って生きるよう勧めています。パウロは、神の恩寵の栄光のために、クリスチャンが地上で聖なる生活を送り、それが天国でも続くようになるために、神は必要以上のものを与えてくださっている、と繰り返し大胆に宣言しています。

使徒パウロによるこの手紙は、エペソの教会に宛てたものであると同時に、アジア州の他の教会にも配布されました。AD60年、ローマで2年間投獄されている間に書かれました。

(エペソ 1.1-2)：「1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ。2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

パウロはしばしば、自分の使徒職を可能にしているのは霊的賜物だけでなく召命であり、したがって神の御心によって書いているのだと繰り返します。彼は、これらのキリスト教会の聖徒を称賛し、あるいは他の人々に、聖なる聖徒になるには、これらのエペソの信徒がそうであったように、キリスト・イエスに忠実であることが必要であることを示唆したのです。

(NASB1995)の聖書のエペソ人への手紙1章の副題は、「**贖いの祝福**」です。これは、適切です。というのは、(2節)「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」にあるようにパウロは、この手紙の主要なテーマがここに記されていることにすぐに気が付くためです。私たちクリスチャンは、神との関係について話すとき、恩寵という言葉をよく使います。私は自分自身や他の人々に、恵みの正確な意味は無償の恩恵であることを思い出させたいです。このことは、時折私たちの心に思い起こさせる必要があります。(エペソ 1.2)、この短い前置詞 from は、私たちの父なる神と主イエス・キリストからの恵みという無限の、本当に尽きることのない源を示しています。ヘブライ語で「聞く」を意味する旧約聖書のユダヤ人「シェマー」は、全能の主なる神を「複雑な一体」と表現するのに正確でした。このことは、ヘブライ語で「一つ」を意味する「echad」が使われていることから明らかです。(申命記 6.4)の「シェマー」から、「イスラエルよ、聞け！主はわれらの神、主はひとりな

り {echad}! イエスは神を三位一体として完全に明らかにされました： 父・子・聖霊、唯一の神。

私は特に神に祈るとき、(1 コリント 8. 6/MOUNCE) の聖書の一節を思い出すのが好きです： 「6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」

(ヤコブ 1. 17) にあるように、すべての善いことは父なる神からクリスチャンにもたらされます：「17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません」そして、光の父からクリスチャンにもたらされるすべての良きものは、唯一の主、イエス・キリストを通してもたらされます。」 **恵みと平和は、そのような良いもののうちの2つです!**

(エペソ 1. 3-4) : 「3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」 また、(3 節) には、私たちの主イエス・キリストの神であり父である方を賛美し、祝福を捧げるとあります。父はすでに、キリストにあって、天の位においてあらゆる霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいています。神は時の上におられることを忘れてはいけません。私たちが今いるところを見ておられると同時に、すでに天におられます。神はいかなるクリスチャンからも霊的祝福を差し控えることはありません。霊的祝福がないのは、それを求めない私たちの側に原因があるように思えます。いずれにせよ、そしてそんなこととは関係なく、父は私たちに恵みと平和を与え続けてくださいます。

クリスチャンは、片足を地上に、もう片足を天国に置いて、本当に伸び伸びと生きています。これは冗談か笑い話のように聞こえますが、永遠の故郷に目を向けることができれば、地上でのさまざまな苦労は小さなものになります。

次にパウロは、イエスが教えてくれた、時を超越した存在である神について、そして神に選ばれた者について、(エペソ 1. 4) で教えています：「4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」この“神についての知識”あるいは“神学”は、私が2024年3月17日に『義認』と題して説教したローマ書8章に詳しく述べられています： 選択者である神

(ローマ 8. 29-30/NASB) : 「29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」

同様に、ここエペソ人への手紙1章では、「あらかじめ」と「定め」について、より測定可能で科学的な時系列で説明しています。「世界の基が造られる前から」と書き、霊的な宇宙だけでなく、物理的な宇宙の創造主である神を強調しています。私たちクリス

チャンは、私たちが神の御前で聖なる者となり、罪のない者となるようにと、神の意図と力をしばしば忘れていきます。律法主義を抜きにして、イエスとの関係に飢えつつ、私たちは思い出すことは、(ヘブル 12.14)にあります：「14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。」聖なる神への畏敬の念に加え、イエスを見たいという強い動機は、畏敬の念と子供のような信仰によって、私たちが「聖化」と呼ぶものを促進します。聖化という言葉は、この世の霊から引き離されることを意味します。

数週間前、ここ OIC で、私たちの子供のような信仰は、子供たちの輝かしい歌 “Heaven Is A Wonderful Place” を歌うときに表現されました。幸せそうな人形と一緒に、“I want to see my Saviour’s Face”...そして何度も何度も、“I WANT TO GO THERE!”と歌いました。イエスとともにある天の故郷に焦点を当てることで、私たちはすべての人との平和を追求しながら、優しくなることができます。そうすれば、どんな衝突があっても、神が完全な御心、神の「恵みと平和」をもたらしてくださると信じることができます。

さて、パウロは、神がイエスに従う者に与える「恵みと平和」の背後にある力、すなわち永遠の原因と理由を語っています。しかし、パウロは、私たちの永遠の愛と感謝を、愛であるイエスに帰結させるような、新しいフレーズや表現を加えています。それは、**主の恵みの栄光を賛美する言葉**です。これはパウロが(エペソ 1.5-6)で紹介しています：「神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。6 それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」

パウロはこの手紙の中で、**主の恵みの栄光を賛美するために**、この素晴らしい命の言葉を繰り返します。これは終末論的な、つまり神の立場から見た終末の視点や見方ですが、私たちクリスチャンは皆、それを経験することになります。私たちは義と認められた罪人であり、聖なる聖徒です。私たちはイエスによって天国で神の前に居させてもらいましょう。私たちは、**神の恵みの栄光**のために、感謝と賛美を捧げることで宇宙を満たすでしょう。どんなにイエスに忠実であったとしても、聖別された聖なる生活を送ろうと決心していたとしても..... 私たちをそこに導いたのは神の恵みの栄光であったことを理解するとき、私たちは感謝に打ち震えるでしょう..... 神が私たちを十字架上のイエス・キリストの血の犠牲によって子として養子にするよう定め給うた永遠の過去から..... そしてついに時が過ぎ去ったとき..... 罪のない、しみもしわもない者として、神の御座の前に立つことができるのです。パウロは(エペソ 5.27)で、クリスチャンのこの未来についてさらにこう書いています：「27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」(使徒 14.22)にあるように、パウロは弟子たちに「多くの苦難を経て神の国に入らなければならない」と教えました。しかし、これらの苦難は、(エペソ 1.4-6)で宣言されているように、愛する者において私たちに惜しみなく与えてくださった主の恵みの栄光をたたえるために、**主のご意志の限りない愛と力に立ち向かうとき、限りなく小さく、弱いものに思えます。**

(エペソ 1.7)：「7 私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」 ユダヤ人クリスチャンへの手紙は、贖いの代価を（ヘブル 9. 22/MOUNCE）において正確かつ明確にしています：「22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」

今日、贖われたクリスチャンとして私たちが受けているすべての恩寵と平和、そしてあらゆる祝福は、2000 年以上前にイエスが十字架上で流された血によって贖われたものです。

パウロはエペソ人への手紙の中で、恵みという言葉が 12 回しか使いません。しかし、イエスに従うすべての人々が神の恵みの栄光を受けられるようにという神の意図を繰り返し強調しています。パウロが私たちクリスチャンに与えているのは、生き方の手引き書ではなく、私たちに対する天の父の永遠の愛を信じる感謝の心を私たちの内に生み出すための、聖霊の靈感を受けた言葉です。強調されているのは、父である神と、その血によって私たちが贖われた御子である最愛の方です。私たちイエス信者は、そのような愛の実践の受け手なのです。親愛なる OIC の聖徒の皆さん、私たちの心が神の素晴らしい恵みに感謝し続けるとき、どういうわけか私たちは、決められたルールに縛られることなく、聖なるイエスの従者として、御霊の中を歩んでいることに気づくのです。古い賛美歌は「主の律法は愛、主の福音は平和」とあるように、です。

(エペソ 1.8-9)：「8 神はこの恵みを私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、9 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであつて、」 神は、私たちの罪の赦しを含め、豊かな恵みを惜しみなく私たちに与えてくださいました！ 繰り返しますが、ギリシャ語の新約聖書でパウロが選んだ「惜しみなく」という言葉は、περισεύω（ペリセウオー）です。これは、「特別のものである」、「豊かである」という意味です。使徒は、エペソの信徒たち（そしてすべてのクリスチャンたち）に、神の愛についてもっともっと大きな考えを持ってほしいと願っています。神は決して茶碗やシンプルで愛を与えるのではなく、大海で愛を与えます！ これは私たちの価値とは何の関係もないのです。そうでなければ、主の恵みの栄光を称えることにはなりません。それは、私たちが信仰によって御子を受け取ったからに他ならないのです。

(エペソ 1.9)：「9 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであつて、」 イエスが地上に来られる前、人類に対する神の御心はまさに謎でした。このことは、新約聖書の信者に対するイエス・キリストという人物の神の啓示と、旧約聖書の忠実な預言者たちに対する神の啓示とを比べるとよくわかります。これは（1 ペテロ 1.8-11）に記されています：「8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。10 この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難と

それに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。」

私たちクリスチャンは、**神の恵みの栄光**のもとに、実に豊かに祝福されています。イエスが現れるであろう国に、救い主の到来に関する神の約束を告げた預言者たちの多くは、殺されたり投獄されたりしました。彼らは、私たちが受けたもの、すなわち「神秘」が成就するのを見ることはありませんでした。

(**エペソ 1.9**)に記されています：「神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであって、」 親切心とは、親切のように単純な概念であり、神にとっては十分なものでも力あるものでもないように思われるかもしれません。しかし聖書は、神は愛であることを (**1ヨハネ 4.8**)、神の御霊の実について (**ガラテヤ 5.22-23**) に記しています：「**22** しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、**23** 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」

この罪深い世界に何年も生きていれば、真の優しさがどれほど希少なものであるかがわかるでしょう。親切な神ご自身の霊だけが、それを人間の心に日常的に実らせることができます。神の親切な意図は、イエスを信じるすべての人に、このように意図されています。次の節に進む前に、アンプリファイド・バイブルを引用しておきましょう。(エペソ **1.9/AMPC**)：「御心(御計画、御目的)の神秘(秘密)を私たちに知らせる。[それは、かれが前もって御計画になり、御自分のうちに示された、御心(慈しみ深い御旨)に従ってである、]クリスチャンは、神が人類に対する永遠の御心の秘密(奥義)を明かしてくださるといふ、このような特権と祝福に心から畏敬の念を抱いているのかもしれませんが。そしてもちろん、過去には神秘であったこのことが、今ではイエス・キリストの福音となり、地の果てまで宣べ伝えています。神はもはや、永遠の命の賜物を秘密にしておくことを望まれていません!... 私たちもそうすべきなのです!

エペソ人への手紙1章では、NASBでは5節、8節、10節、11節、14節など、番号の配置がぎこちないことに注意してください。このバージョンはこの釈義を説明する助けにはなりません。おそらく、NASBが原語のギリシャ語に忠実であることが原因でしょう。新約聖書の原典は節番号もなく、大文字か大文字のギリシャ文字だけで書かれているのですから。それでも..... 私たちは前進します!

さて、パウロは、キリストの内にある信者の立場を強調しています。(エペソ **1.10**)：「**10** 時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、」人類はすべて、たった2つの霊的カテゴリーに分けられます：1)キリストのうちにいるか、2)キリストのうちにいないか。パウロは、エペソのクリスチャンたちに、アメリカの古い賛美歌に歌われているような「いのちのすばらしい言葉」を書き送りました。{牧師がワンフレーズ歌う}。この「すばらしい言葉」は、キリストにある人たちだけのものです。

聖書翻訳に関するその他の注意事項：様々なNew American Standard Bibleの訳は、ギリシャ語新約聖書の原典に忠実です。しかし、ギリシア語に馴染みのない英語圏の人々や日本人にとっては、文法の構成が文脈によって理解を難しくすることがしばしばあります。この説教について、またこの考え全般について、日本の友人からご意見をいただけ

れば幸いです。エペソ人への手紙1章の9節から11節までで、パウロが描いている全体像のために、私は the **New Living Testament (NLT)** を選びました。これらの節は、キリストにある者にとっての「時の終わり」あるいは「時の満ちし」を表現しています。

(エペソ 1.9-11/NLT) を読むと、「時の満ちるにふさわしい管理」という言葉から引き出される意味がよりはっきりします：「9 神は私たちに、ご自分が望んでおられることの秘密を告げられた。それはこうだ：愛に満ちた思いで、キリストを世に遣わすことをずっと前から計画しておられた。10 その計画とは、キリストが適切な時に私たち全員を集めてくださることでした。私たちが天にいても、まだ地上にいても、キリストは私たちを集め、すべての者のかしらとなってくくださるのです。11 私たちはすでにキリストによって、神の子として選ばれていました。これは、キリストが持つておられた計画と同じように行われたのである。」

ここでパウロは、預言的な聖書の言葉、キリストの領有権を述べています。これは壮大な肩書き以上のものであり、キリストの神性と権威です。イエスの神性については、ペンテコステの日に聖霊に満たされた使徒ペテロが、神に愛されたイエスの十字架刑に賛成した、あるいは少なくとも文句を言わずに許したエルサレムのユダヤ人たちに、厳しくも説得力のあるメッセージを与えました。(使徒 2.34-36) にペテロの有名な説教があります：「34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。

『主は私の主に言われた。： {ペテロは詩篇 110 : 1 を引用した}35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。』36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」ユダヤ人であるペテロは、ユダヤ人がダビデ王を偶像崇拜ではなく、尊敬とメシア的資質から高く評価していることを知っていました。そこで彼は、イエスの霊に満たされた弟子たちが異言で語るのを聞いた後に集まった群衆に向かって、詩篇 110 篇 1 節を引用しました。ペテロは、自分たちのメシアを十字架につけたことに気づかせ、ショックを与えました！ 神の恵みの栄光のために、多くの人々が悔い改めてイエスに従う者となり、イエスへの献身を証明するために水のバプテスマを受けました。

これは今日、何を意味するのでしょうか？ イエスは天地の主です。イエスはその天の天使の軍勢とともに、またその力によって、悪魔や日本の霊的プリンスである墮落した天使と戦っておられます。私たちが祈りの中でイエスにそうするように求める時、イエスはさらにそうされます。その邪悪な王子は、日本を自分のものにできると考えています！ イエスは、目に見えるものと目に見えない宇宙の主です。(詩篇 110.1) の引用で再び言います：「1 主 {父なる神} は、私の主 {イエス} に仰せられる。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」1 主は、私の主に仰せられる。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」この箇所が(使徒 2.34-35)の中でペテロによって引用されています。父なる神の右の座にあるイエスの権威は、クリスチャンの祈りによって実現します。(使徒 2.35) において、父なる神とイエスとの約束を守るために：「... わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。」この「あなたの敵」という言葉には、人間だけでなく、サタンや日本の王子のような支配者も含まれます。神

はもちろん、人間であるイエスを反対する者を救いたいと願っておられます。しかし、キリストを拒み続ける人間の敵には、炉のように燃え盛る日が来ます。

さて、私たち信者のための素晴らしい集まりについて、（エペソ 1・10）：「10時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、」 歴史の終わり、時の終わりのこの集いに、ノンクリスチャンは含まれていません。あまりにも多くの罪人が、イエスの優しさと親切さだけを考えています。これらの特質は今でも真実であり、この同じイエスが人類を裁きに来られます。（黙示録 1.16）：「16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。」そして（黙示録 19.15-16）：「15 この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。」

イエスは唯一です。彼は権威を行使し、その口にある剣（神の言葉）を使うために戻ってきます。イエスは今、私たちと共にこの剣を悪魔とその使者たちに対して用いますが、その後、すべての国々に対しても用います。イエスの剣、聖霊の剣、すなわち神の言葉が、罪人を救い、聖徒を癒すためにも用いられることは注目に値します。この剣は、どちらにも使われるとき、必ずしも心地よいものではないが、大いなる医者は、その剣を外科医のように用いて、魂を癒し、治すのです。

もしこれがあなたにとって恐ろしく感じられるなら、（詩篇 2.12/KJ21）にあるように：「12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。」ブルース牧師、どうすればいいですか？ イエスに祈り、罪から離れ、イエスの血の犠牲を受け入れるだけです。そうすれば、主イエス・キリストによる裁きの恐ろしい怒りを経験することはありません。

次に、パウロが "In Him" という言葉を書く数回に注目しましょう。（エペソ 1.10-12）：「*In Him* 10時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、11 私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。12 それは、前からキリストに望みをおいていた私たちが、神の栄光をほめたたえる者となるためです。」

In Him... 相続はまだです：イエスは私たちの受ける分です。（ヨハネ 14.3）において、主が最初の使徒たちに言われたこと：「3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」（エペソ 1.10）でパウロが書きました：「10…キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって、」これは預言的に、イエスがすべてのクリスチャンを一つにするとき、イエスがあなたがたをわたしのもとに迎えるだけでなく、地上と天上の権威において、すべてを支配する主としての位置を占めるといふ、大きな絵姿を書いているのです。その時、全能の神はイエスのすべての敵をイエス

の足下に置かれ、私たちは、天国だけでなく、地上においても栄光のうちにイエスと共にあります。(ハバクク 2.14)：「14まことに、水が海をおおうように、地は、主の栄光を知ることによって満たされる。」

イエスのうちに 相続...すでに：日々、私たちはこの輝かしい希望、未来における相続、そして聖霊によるイエスの現存を手にしていきます。イエスは、その最終的な完成、すなわち時の終わりまで、すべての羊たちと共におられます。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ 28.20)で約束されたからです。しかし、親愛なる OIC の聖徒たちよ、私たち人間の弱さは、しばしば「ある日は他の日より良い」と感じるものです。

(エペソ 1.11) を心に留めておかなければならない時です：「11...私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。」神が与えてくださったと信じていた計画が粉々に崩れ去ったとき、神が今も本当に御心にかなうことを行っておられると信じることは、私たちの信仰に対する挑戦です。私の親友で、何年も前にナイジェリアで内戦中に宣教師をしていた人は、これを“ビジョンの死”と呼んでいました。彼は、扉がすべて閉ざされたように見えるとき、宣教師やすべてのクリスチャンがどのように感じるかを知っていました。このような困難な日々には、神の恩寵の栄光のために私たちが召されていることを信じ、イエスを信頼する確かな忍耐が必要です。偉大で雄弁な教師であるパウロは、このシンプルなフレーズを次のように繰り返しています。

(エペソ 1.13-14)：「13 またあなたがたも、キリストにあつて、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」

彼のうちに.....ALREADY (すでに)、“耳を傾け”、“信じた”後に.....」とあるように、“未熟な”クリスチャンが、聖書を読むという金鉱を時間をかけて掘り起こすとき、どのようにして黄金を手に入れるのか、私を驚かせて止みません。さて、私、あなたの牧師も、聖書の金鉱を掘るとき、時々金を得ることがあり、驚きを禁じ得ません。そう、私たちがクリスチャンであるのは、真理のメッセージ、救いの福音を聞いてイエスを受け入れたからです。しかし、先週慎吾が聖霊に導かれて、キリストにある私たちの初期の日々を強調する多くのワーシップ・ソングをリードしてくれたように、私たちはイエスと対面するまで、金を掘り、十字架の栄光を復習する必要があります。これは、私たちが聞くことを止めず、信じることを止めない助けとなります。

イエスのクリスチャンにおける力は聖霊です。私たちは封印されたのです。古くは王の印章のように、また日本の姓の印鑑のように、私たちは封印されたのです。しかし、神の印章は王の王、主の主の印章です！聖霊は、イエスが約束されたように、私たちが時の終わり、あるいは地上での人生の終わりまで、神の力によって保たれていることを保証してください。

それで、この様に言われます。三位一体の、第三位である聖霊は、約束の聖霊であり、**(エペソ 1.14)**：「**14** 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」アンプリファイド・バイブル (Amplified Bible) は、ここにあるように、“pledge (誓約)”をより明確な意味に解釈しています。14節、聖霊は、神の栄光をほめたたえるために、神ご自身の所有物（購入された信者たち）の贖いまで、私たちの相続の保証（最初の割賦金、誓約、前触れ）です。私たちに与えられた聖霊は、私たちがイエスとともに天国で私たちの家、すなわち完全な嗣業を受け取るための神の最初の割賦金、すなわち誓約なのです。私たち日本の賃借人は、最初の分割払いがどれほど大きいかを知っている。私たちの霊的な分割払いは、さらに大きなものであり、神ご自身、聖霊がその分割払いなのです。

多くのクリスチャンは、ファニー・クロスビーが経験したように、神の御霊の誓いは神聖な栄光の前触れであることを経験しています。有名な賛美歌『Blessed Assurance』の1節で彼女が書いたように：“ああ、何と神聖な栄光の前触れだろう”。

私たちクリスチャンが、聖霊の臨在を感覚だけでなく心でも認めることを学ばば学ぶほど、私たちはキリストにおいて受け取ったものに対して畏敬の念を抱くようになります。聖霊の歌“慰め主が来られた”にあるように、“地獄の子である私が、今、主の臨在の中で輝いていても、慰め主が来られたのだ”。{説教者は一時停止して見て強調する}。これはすべて、キリストにある私たちの贖いという、神の目に映る景色とともにあるのです。{{一時停止}}。私たちは神の所有物です.....神の恵みの栄光をたたえるために。祈りましょう！

選考文献

AMP - *Amplified Bible*, Copyright © 2015 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21) Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.